

公開実用 昭和63- 33288

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑪ 公開実用新案公報(U)

昭63- 33288

⑫ Int.Cl.⁴

H 04 R 1/02

識別記号

1 0 1

庁内整理番号

B-7314-5D

⑬ 公開 昭和63年(1988)3月3日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 バスレフ型スピーカシステムにおけるダクト装置

⑮ 実 願 昭61-126653

⑯ 出 願 昭61(1986)8月20日

⑰ 考 案 者	萩 原 光 男	東京都渋谷区渋谷2丁目17番5号	株式会社ケンウッド内
⑱ 考 案 者	国 井 正 俊	東京都渋谷区渋谷2丁目17番5号	株式会社ケンウッド内
⑲ 出 願 人	株式会社ケンウッド	東京都渋谷区渋谷2丁目17番5号	
㉑ 代 理 人	井理士 垣 内 勇		

明 細 書

1. 考案の名称

バスレフ型スピーカシステムにおけるダクト装置

2. 実用新案登録請求の範囲

スピーカキャビネットの一側面に開口部を設け、該開口部からキャビネット内方向に立設するバスレフダクトを備えたバスレフ型のスピーカシステムにおいて、

キャビネット内部に位置するバスレフダクトの後端開口部を連続発泡材やガラスウール等の吸音材で覆ったことを特徴とするダクト装置。

3. 考案の詳細な説明

「考案の目的」

（産業上の利用分野）

本考案はバスレフ型スピーカシステムにおけるダクト装置に係り、特に中音がダクトから前面側に放射されないようにしたものに関する。

（従来技術）

従来一般的なバスレフ型スピーカシステムにおけるダクト（以下バスレフダクトという）は、

バッフルに形成した取付孔に単に両端を垂直カットしたダクトパイプを固定したものであった。

(考案が解決しようとする問題点)

上記した従来のバスレフダクトにおいてはキャビネット内部に放射された中音がダクトから音として相当の割合で放出されるが、この中音はウーハの背面からの音であって位相が逆であるばかりでなくキャビネット内部で乱反射しているため質が悪化しており、このような音がダクトを通じて正面から出るとスピーカユニットから放射された音と干渉してスピーカシステムの音質を劣化させてしまう。

上記した現象を少しでも低減するために、ダクトを折り曲げたりダクトの開口部をスピーカシステムの背面側に開けたものもあるが、これによっても十分な効果を得ることができなかった。

本考案の目的は上記した従来のものの欠点を解消し、上記したような濁った音がダクトから放出されないようにして音質の改善を図ったダクト装置を提供することにある。



「考案の構成」

（問題点を解決するための手段）

本考案に係るバスレフ型スピーカシステムにおけるダクト装置は、スピーカキャビネットの一側面に開口部を設け、該開口部からキャビネット内方向に立設するバスレフダクトを備えたバスレフ型のスピーカシステムにおいて、キャビネット内部に位置するバスレフダクトの後端開口部を連続発泡材やガラスウール等の吸音材で覆ったものである。

（作用）

バスレフ型スピーカシステムにおいてはダクトからは低音が出て再生帯域を拡大する効果を得ることができるものであるが、ウーハの背面からキャビネット内部に放射された音は吸音材を通じてダクトから前面に出て中音は吸音材に吸音され、ダクトからは出ないためバスレフ型本来の目的である低音だけをダクトから出すことができる。

（実施例）

本考案に係るバスレフ型スピーカシステムにおけるダクト装置の実施例を第1図及び第2図に基づいて説明するが、第1図は断面図、第2図は吸音材の配置形態を示す斜視図である。

図中、1はバスレフ型スピーカシステム全体を示し、2はキャビネット、3はバッフル、4はバッフル3に先端開口部4aを開口させたダクトパイプであり、これによりバスレフダクト5が形成されている。本考案においてはこのバスレフダクト5の後端開口部4bを充分に通気性を備えた連続発泡材又はガラスウール等からなる吸音材6で覆ったものである。なお、7はウーハ、8はスコーク、9はツイータである。

「考案の効果」

本考案に係るバスレフ型スピーカシステムにおけるダクト装置によれば、ウーハの背面からキャビネット内部に放射された音は吸音材を通じてダクトから前面に出て中音は吸音材に吸音され、ダクトからは出ないためバスレフ型本来の目的である低音だけをダクトから出すことができる。

このようにダクトからは低音だけが放射されて中音が出ないから中音による干渉が少なく、音質の優れたバスレフ型スピーカシステムを得ることができる。

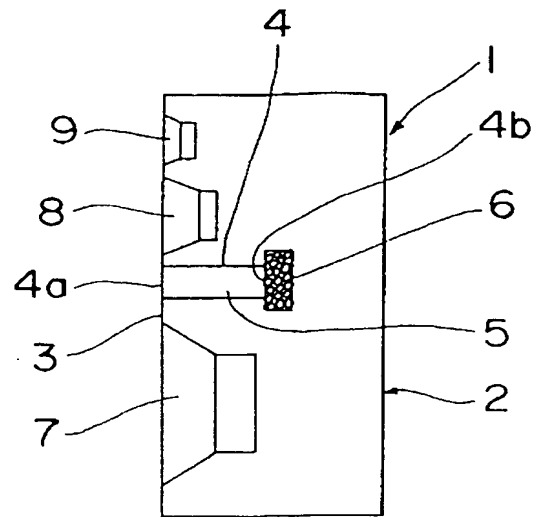
4. 図面の簡単な説明

第1図及び第2図は本考案に係るバスレフ型スピーカシステムにおけるダクト装置の実施例を示し、第1図は断面図、第2図は吸音材の配置形態を示す斜視図である。

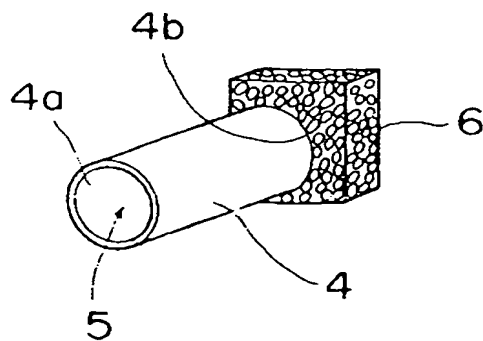
1:バスレフ型スピーカシステム、2:キャビネット
3:バッフル、4:ダクトパイプ、5:バスレフダクト
6:吸音材、7:ウーハ、8:スコーカ、9:ツイータ

実用新案登録出願人 株式会社ケンウッド
代理人弁理士 垣内 勇

第 1 図



第 2 図



1068